

施設職員が障がい者や親や地域の方々とともに 学ぶ「発達と障害の理解促進のためのタイプ別研修会」

社会福祉法人 翔空会

〒811-2207 福岡県糟屋郡志免町南里 2 丁目 9 番 26 号

助成事業の概要

【目的】

当法人グループ運営の子育て・障がい児者支援施設職員たちの「発達と障害に関する知識とスキルアップ」、そして利用者（または親）自身の「自己の障害に関する適切な認識と受容」、さらには地域のリーダーや関係者たちが「現代の子どもの課題・危機の認識と、対応方向の理解の共有」等を目的に、対象者層別に内容をアレンジした研修会を複数回実施し、この地域での「発達と障がいの理解促進」の端緒を拓くため。

【時期・内容等】

6 回開催の計画であったが、5・7・9・12・1 月の 5 回の開催となった。しかし、どの回も、午前が「障がい児の親が対象の研修（成人利用者の参加も可）」、午後が「施設職員対象（利用者の参加も可）」として開催したことから、計画時の回数分には十分対応できた。内容は、障害に関する理解と受容につながる「発達と障害に関する基礎的なもの」の浸透を図った。

その他一般住民・関係者の参加者は、告知はしたものの今年度においてはなかなか多数の参加を得られるまでには至らなかった。この点は、次年度への課題であろう。

事業の成果

1. 施設職員の反応

今回の一連の研修内容は、保育や療育、障害者対応に携わっている職員にとっても、「これま

で知らなかった、聞いたことがなかった」という内容が多かったようだ。「もっと学びたい。今年だけでは足りない。」というように継続開催を望む声が増え、参加人数も回を追うごとに徐々に増えてきたが、それはアンケートでの高評価にも反映されるところとなった。次年度は人数、内容理解・習熟度ともにさらに伸ばしていきたい。

2. 大人の障害者（利用者）

比較的知的に問題のない利用者（身体、精神、軽度知的）が、かなり関心を持って積極的に参加してくれた。参加者の実質人数は 20 名程度であるが、うち 2 名に関しては全回参加し、ともに 2026 年秋から当法人就労継続支援事業所及びこども園に障害者就労として一般就労することとなった。その学びの意欲は高く、そのうちの 1 名に関しては、健常者の支援員をも凌ぐ理解度に達している。このようなレベルの高い人材を発掘できたことは、今回の事業の最も大きな成果ではないだろうかと自負している。

また、全回参加はできなかったものの、「自身が抱える障害の理解と受容」が明らかに進んだ利用者も数名出たことから、利用者を対象とした研修の意味は大きかったと思われる。

3. 子どもたちの親（利用者の親）

療育施設や特別支援学校を利用することに、まだまだ抵抗があり、その認識の壁を打ち破るまでには至れなかった。「特別支援＝劣っている」という誤った認識を修正してもらうべく、「IQ だけでは測れない・表現できない人間の知的能力」に関して説明もしたが、まだまだ十分な理解を得られていない。この問題は、いわゆる「世間体や

見栄」との戦いでもあることから、無理に押し付けず、気長に対応していくしかないと考えている。

4. 地域リーダーや関係者

今年度事業で最も足りなかった点は、「地域の理解者の発掘・育成」という点であった。この点に関しては、次年度再トライしたい。

成果の広報・公表

成果として、B5 版 16 頁のリーフレットを 1,000 部印刷し、当法人各事業所、関係団体各事業所から、子どもの親、障害者を抱える家族、相談支援専門事業所、特別支援学校の教員、地域の役場や社会福祉協議会等に配布した。

当初は 2,000 部配布を計画していたが、身の丈にあったレベルからの浸透策を考える方がベターであると判断し、まずは今年度 1,000 部とした。次年度以降は徐々に増やせるように普及に努める所存である。加えて、5月30日からスタートする 2026 年度研修でも補助教材として使用し、2025 年度成果の更なる定着を図る所存である。

この後、当法人のホームページや各事業所のホームページにもリーフレットの一部、或いはダウンロード版の PDF ファイル等をアップロードしていきたいと考えているが、一人一人に説明しながら手渡しする方が、印象には残りやすいのではないかと手応えを感じている。

今後の展開

2025 年度に続く「2nd ステップ事業」を貴財団の 2026 年度助成事業に採択していただくことができました。感謝の言葉以外にありません。ありがとうございます。

2026 年は、旧年度に比べ「受講者参加型のメニュー・時間帯」を増やす所存です。今年は「あ

まりに初めての内容が多く、ついていくのに一生懸命だった」という感想を漏らす受講者が多かったのですが、回を追う毎に理解度を増していったようで、5月30日からスタートする 2026 年度研修では、さらに理解を増してくれる参加が増えるものと期待しています。なお、2025 年度作成した冊子の残部は、この新年度研修会にも補助教材として使用する予定です。

また、障害児の親や子育て支援者だけでなく、大人の障害者に向けた「理解と受容のための研修」にも期待をしています。2025 年度では「研修に積極的に参加したい障害者」よりも「関心を示さない障害者」の方が多かったのですが、少しずつ前者が増えてくるのではないかと期待しています。